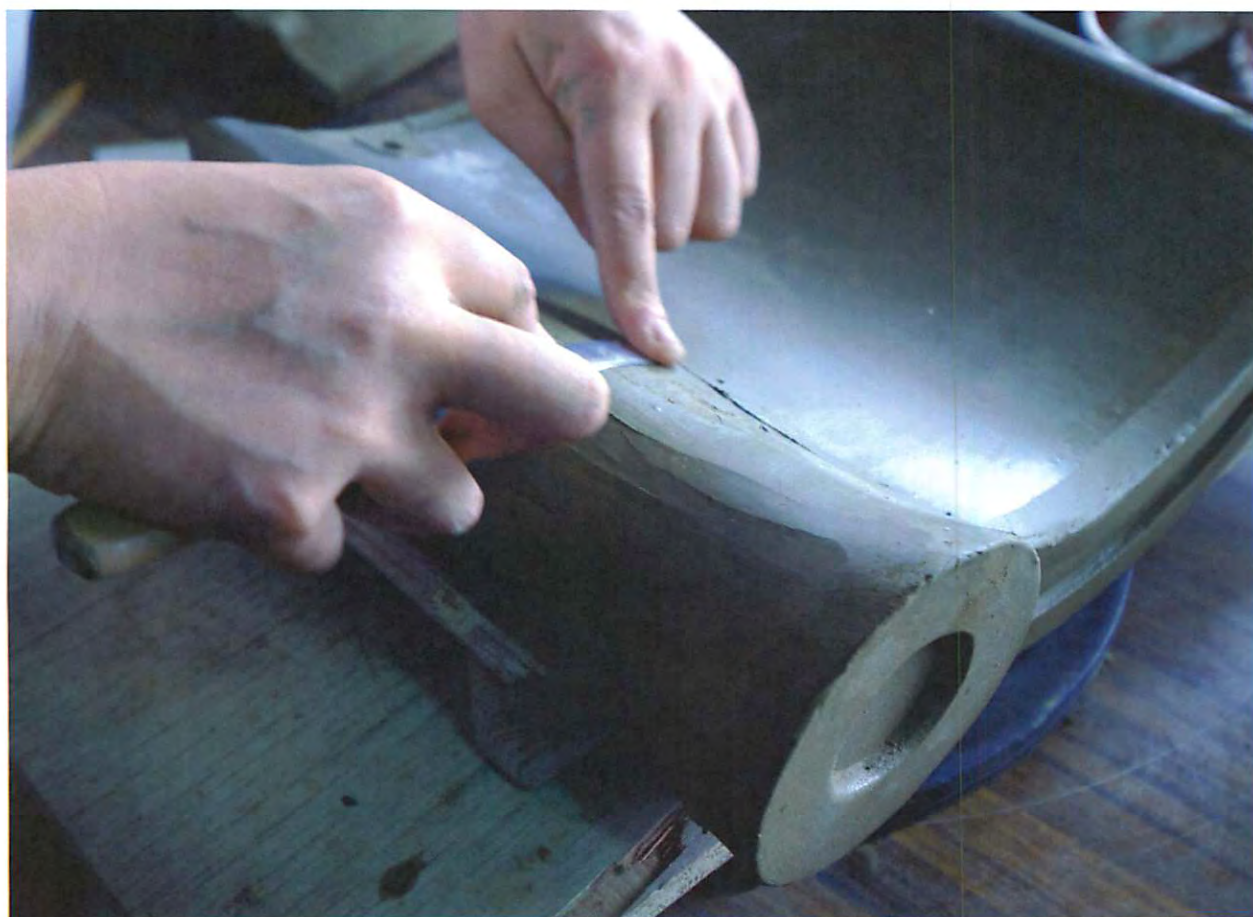




KAGAWA HISTORICAL ARCHITECTURE COMMITTEE

vol.02



保存修理の現場から

香川県内で現在行われている歴史的建造物
保存修復(修理)工事の現場からのリレー・レポート。



■ 第2回

善通寺誕生院太鼓塀の美装化事業 ②

松原 潔



調査結果による新事実

着工前の現状調査および中塗りまでの掻き落とし作業そして瓦や屋根木部の保存状態確認などを通じて、新たな事実が判明した。

太鼓塀(箱塀)は勅使門両脇に隣接する部分のみで、その他は付柱(つげばしら)の土塀であった。

土塀の表面には最大で50mm厚の修復壁があった。また、その下層には修復以前の定規筋の痕跡が確認でき、現状とは位置が異なっていた。

屋根の木部には和釘の使用が確認された。

このことから、土塀部分の建設年代は勅使門が建立された昭和11年(1936)を遡るものと考えられる。土塀が近接する仁王門の建立は明治22年(1889)であることから、修復以前の定規筋の痕跡はこの頃のものの可能性が高い。おそらくは、勅使門の建設後に土塀の改修がおこなわれ、付柱と修復壁・定規筋が施工されたのだろう。勅使門建立直後の古写真には、粗々しく削り取られた土塀の切断部が写っている。なお、土壁自体の建設年代は、江戸時代にまで遡る可能性もある。

修理工事の概要 ～仮設工事から木工事まで～

1. 仮設工事

足場

工期及び工事技法の安定を図るために足場を組み立てた。正面堀側は底地より単管足場を組み、工事用の通路を確保するため棚足場を作り足場板を敷き詰め、境内側は脚立足場を設置し、足場板を敷き工事にあった。外部には仮囲いを行い、シートで囲い参詣者観光客に対して安全を確保した。また勅使門扉の養生を行い、文化財保護に努めた。

現場事務所および仮設設備

工事期間中、組み立て式ユニットハウス平屋建てを設置し工事用現場事務所として使用した。

2. 木工事(補助対象外工事)

解体

解体中に必要な調査を行ったうえ記録を取った。解体材は再用材(修理材を含む)、保存材、処分材に区分した。

再用材および取り替え材

解体した材は、将来支障のない限り務めて再用した。また腐朽、破損が著しく、取替、継木、埋め木が必要な部分には、同材種を使用した。

工法

工法は建立当初の様式に倣い、継手、仕口等を施工した。再用材は繕い材も含め、すべて亀の子たわしで清掃を行った。取替新調材は、木痩せを考慮し現状の木材より分増し加工を行った。ただし古材を利用して修理を行った部分については分増しは行わなかった。今回全体に湾曲している箇所については、解体に伴う再調査により、補強の必要がないことを確認した。見えがかりの取り替え材は、古色塗を行い違和感がないようにした。



修理壁の下層から旧定規筋の痕跡を発見



土堀上部の屋根構造



垂木に和釘と洋釘が混在した

文化財名：国登録有形文化財(建造物)普通寺誕生院 太鼓塀、木造平屋 切妻本瓦葺、土塀箱塀、
総長さ60.95m 高さ2.74m・2.31m

建設年代：箱塀：昭和11年(1936)

土 塀：明治中期頃

事業者：宗教法人普通寺

施工者：藤木工務店

設計監理：(有)夢和(ゆめ)詩生(しせい) 伝統建築研究所

技術指導：岡山理科大学教授 江面(えづら)嗣人

●コラム
古民家を
思う

第2回

和と洋の2つのハレの間をもつ迎賓館

高橋 史

古民家を懐かしいと思う。
住んだこともないのになぜか懐かしい。
懐かしさのより所(根拠)はどこに
あるのだろうか。

このコラムは庶民の住宅をテーマにしていますが、
今回は番外編として香川県坂出市の(公財)鎌田共済会が
所有する「淡翁荘」を紹介します。



香川県坂出市の鎌田醤油といえば、香川県で名の知れた老舗の醤油の製造販売企業。淡翁荘は鎌田醤油本社工場の北側に位置しています。淡翁荘は4代当主・鎌田勝太郎が昭和11年(1936)に建てた鉄筋コンクリート壁構造の洋館です。

もともとは隣の母屋と一続きに使用されていましたが、老朽化にともない1階の管理部分を増築し、独立した建物として改修されました。

2014年12月には、国の登録有形文化財に登録。現在は四谷シモン人形館淡翁荘として一般公開されています。各部屋には人形作家・四谷シモンの人形が展示されています。

「和の座敷」と「洋の迎賓室」が同居

淡翁荘は日本の伝統的な建築様式の「和館」と西洋の建築様式の「洋館」をもつ「和洋館並列型住宅」。

建築の専門家でない私にとっては、「和館と洋館がいつぺんに見学できる!」なんだが得した気分になる建物です。

(図)和洋館並列型住宅から外観洋風内部和室・洋室混在型住宅へのおおまかな流れ



和洋館並列型住宅の流れは明治期を発端としていますが、淡翁荘は昭和期の「外観洋風・内部和洋室混在型住宅」(以下、和洋室混在型住宅)に当てはまると考えます。

同時代の和洋室混在型住宅は「ハレ」の間の客間が洋室で、どちらかといえば「ケ」の間の居室が和室という傾向にあります。しかし、淡翁荘は1階に「和の座敷」、2階に「洋の迎賓室」と2つの「ハレ」の間が同居していること

が特徴的です。

和洋2つの「ハレ」の空間があるにもかかわらず違和感を覚えないのは、現代住宅が当たり前のように和室と洋室が混在した住宅で、私の感覚に「和洋折衷」が染みついているからでしょうか。

中廊下のふすまを開けると突然に座敷がある間取りも、私には現代住宅の「豪華版」のように感じ自然に受け入れていました。

参考：内田青蔵氏 日本建築学会賞「わが国の住宅の近代化に関する一連の歴史研」(2017年)
https://www.aij.or.jp/jpn/design/2017/data/2_1award_002.pdf
 pdf 18P





洋のなかにも 和のディテール

外観全体は箱型のシンプルな洋館ですが、和の要素が取り入れられています。完全に「洋館」の外観が多い同時代の和洋室混在型住宅に比べて、外観も和洋折衷の工夫がされていることが淡翁荘の面白さだと思います。1階の外壁には「The日本」の縁側と軒が設けられており、「和の座敷」から屋外へと自然につながっています。




洋室は大壁造りですが、和室は真壁造りで、床から付け鴨居までの高さなど伝統的な和室の寸法が守られています。あちこちにある「和洋折衷」の工夫を探すことも淡翁荘の見どころです。



また、床の寄せ木細工や天井の漆喰模様、照明や暖炉のタイルに窓飾りなど、贅を凝らした細工や調度品がしつらえられているので、一般の方も同時にタイムスリップした気分で見学を楽しめると思います。



建設年代：昭和11年(1936)
建築面積：1階141㎡、2階125㎡
所在地：香川県坂出市本町1-6-35
構造：鉄筋コンクリート壁構造
見学：金・土・日 10:00~16:00



近世後期 農家の間取りと 小屋組み

戸塚元雄

前回は藤田元春著「日本民家史」を参考に瀬戸内農家の屋根を取り上げたが、今回はもう少し視野を広げてみたい。

はじめに近世の民家を定義しておこう。

「近世民家」とは、江戸幕府身分制度の下に生きた農民と町人(商人・職人)の住居である。農民は農村に、町人は都市(城下町)に分かれて住んでいた。職業と居住地の違いは宅地の規模と形状、住居の間取りや屋根などに表れている。

江戸後期は日本の民家が大きく変わった時代であった。

変化は住宅の規模や間取り、造作、材料、塀や門のつくりなど住環境全般に及んでいる。それは平和が続いた江戸後期の庶民の経済力向上を動

因とした「武家様式に倣った民家の邸宅化」であった。

勿論こうしたことは限られた富裕層の間の出来事であり民家一般に拡大することはできない。一方には中世と全く変わらない掘立柱の貧しい民家が沢山あった。遺構は全く残っていないが、数の上では後者の方が圧倒的に多かったことは間違いない。

しかし後世から見れば、民家はこの時期にようやく「住宅」としての体裁を整えたと言えることができる。

前回でも触れたように、変化は幕府とその意向を受けた藩による度重なる規制の下で徐々に進行した。

規制は農家に厳しく町家には緩かった。街道筋の旅館など多くの人間が出入りする町家は武家にとっても有益であり、火災を恐れたため城下町

の瓦屋根や「うだつ」はむしろ推奨されていた。

一方、年貢の負担義務を課せられた農家は住宅・衣服・食事など生活全般に対して、今日から見れば理不尽と思える厳しい規制を受けていた。住宅については村内の階級差(庄屋・惣百姓・小作)に伴う自主的な規制もあった。

「分を守る」ことが身分を越えて江戸期の社会通念になっていたことが分かる。

住宅の規制は規模、造作、屋根、門などを対象としていた。規模については梁間を二間半乃至三間以下とすることを求めている。





桁行は六間までとされた。造作は長押や付書院などの武家様式と漆塗など華美なものが、屋根は入母屋や破風構、檜皮葺など武家や社寺が好んで用いたものが禁じられた。

しかし、時代の流れは為政者の意図を越えて進む。

高度重なる通達もさほど効果はなく富裕な民家の邸宅化は止められなかったが、一方で思いがけない効果もあった。

梁間三間、桁行六間の制限は、かえって一般農家の目標とするところとなり、近代農家の標準の間取りが生まれたのである。

その昔、日本の住宅の部屋はあまり大きくなかった。現存する室町期書院造の建物には六畳、四畳半、三畳といった部屋が沢山ある。

將軍足利義政が建てた東求堂の書齋・同仁齋は四畳半、寝室は六畳、脇の間は四畳だった。

江戸初期の武士住居でも一万石以下は座敷を二間半梁にすべきという制限を受けていた(寛永二十年・徳川禁令考)。

梁間方向に二室を取ろうとすれば六畳間が限界になる。床の間・違い棚を備えた八畳・十畳の座敷が登場してくるのは江戸中期以降と思われ

る。幕府の禁令が度々出されたのもこの頃からである。では、梁間三間、桁行六間の制約の中で、どのようにして八畳座敷が可能になったのか。

農家の場合を考えてみよう。

農家の屋根は寄棟草葺で小屋組は合掌である。合掌は梁の両端部で支持されるから梁間を制限されると面積は拡大できない。

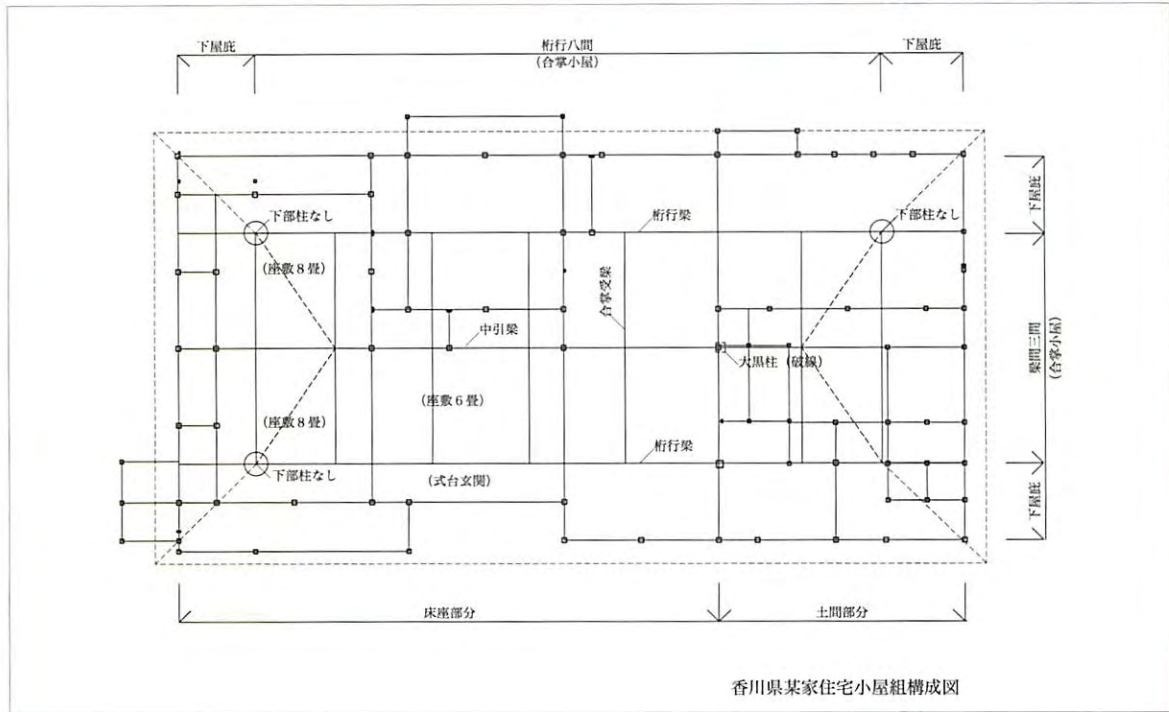
梁間三間を中央で二分すると六畳二間になる。では桁行方向はどうか。

農家の平面は作業空間の土間と居住空間の床座とに分かれている。

桁行六間の内、二間を土間とすると残りは四間だから六畳が四間取れる。

今和次郎が「日本の民家」の中で、農家の間取りは土間と床張りの部屋との部分から出来ているが、床を張ってあ

近世後期
農家の間取りと
小屋組み
片岡元雄



る部分は十字形の間仕切で、四つの部屋になったものが最も普通であると書いたのはこれである。

では、どのようにして八畳間をつくれたのか。古来、日本建築は上屋と下屋の二つに分かれていた。上屋は身屋、下屋は庇と呼ばれた。

庇は附加されたものであり主屋ではない。梁間を三間以下に制限されても庇は許されると解釈できる。

幕府もこれを認め、庇半間乃至一間までは許している。そうなれば平面は奥行四間から五間まで広がり、庇下を床の間や違い棚、縁側などに利用しながら八畳座敷をつくることのできる。四方に庇を回すと庇の隅木は合掌の四隅に交わりそこに荷重が集中するが、間取りによってはその交点に柱を立てられない場合もある

(図面参照)。しかし桁梁を下屋まで伸ばせばなんとか対処できる。

四つ間取の平面を持ち、書院造の座敷と急勾配の草葺寄棟屋根の周囲に瓦庇を回した農家はこうして増えていったと思われる。

近世後期以後の農家は出自の異なる二つのシステム、農家本来の平面・小屋組と武家の書院造、を合体させてつくられている。

床座に武家様式を導入したことが農家の在り方を大きく変える端緒となった。近代以降、屋根が草葺きから瓦葺きに、小屋組みが合掌から和小屋に変わるに伴い、農家は労働と休息の場としての内向きの性格を弱め、接客や外観を重んじた外向きの性格を強めていった。

昭和の農村に現れた「入母屋御殿」

はその最終形と言えらるだろう。

出典：藤田元春著「日本民家史」(刀江書院)

香川歴史的 建造物保存活用会議 通信 vol.02

発行：香川歴史的建造物保存活用会議
発行日：2020年5月25日
住所：〒763-0033 丸亀市中府町四丁目2-27 香川歴史的建造物保存活用会議 事務局
電話：0877-85-5126 FAX：0877-85-5127
URL：<http://kagawa-historical-archi.org>
mail：info@kagawa-historical-archi.org
編集会議メンバー（50音順）
大西泰弘、高橋史、玉井幸絵、松原潔、森本英樹

普通寺誕生院太鼓塀の美装化事業② —— 1-2 松原 潔 まつばら きよし

日本の仏像、特に運慶の作品にひかれ美術史を学ぶ。仏像だけでなく、その安置空間や建築にも関心がある。平等院鳳凰堂、浄土寺浄土堂、東欧・北欧の木造教会も好き。

和と洋の2つのハレの間をもつ迎賓館 —— 3-5 高橋 史 たかはし ふみ

大学で地域づくりを専攻し、香川県内の観光まちづくりに10年ほど携わる。明治～昭和初期の近代建築めぐりが趣味。現在、ウェブ制作会社で取材・ライティングを担当している。

近世後期農家の間取りと小屋組み —— 6-8 戸塚元雄 とつか もとお

国産杉材による住宅設計者。住宅のスタンダードへの視点から近世・近代の住宅史、1950年代の小住宅などに関心を持つ。

近代の瓦 —— 11 大西泰弘 おおにし やすひろ

住宅、都市デザイン、景観、ランドスケープデザイン、地域計画など住環境の分野を中心に、丸亀城下町や住宅のつくり方など地域課題に長くかかわっている。

活動 報告

香川文化遺産保存活用技術者養成講座

文化財建造物にかかわる技術者の養成を目的に全国で開催されているヘリテージマネージャー養成講座は、香川県では香川歴史的建造物保存活用会議（以下、KHACという）が主催し、香川大学創造工学部を主な会場として、現在第三期講座を開催している。

過去の講座は2016年、2017年の2回開催し、受講修了者は44名である。

香川県での講座の特徴は、建築士の資格などの参加条件がないことで、文化財建造物に興味のある人は誰でも受講できる。現在、受講修了者からなるKHAC会員の約3割を建築士以外が占めている。

KHACの活動目的は、身近にある文化財建造物を評価し、地域活力向上につなげるように活用し残していくこと。それを担う人材育成のための様々な学習機会を提供することである。講座では、地元や全国から関係する分野の専門家を講師に招き、文化財建造物に関する様々な講義を聴くことができる。第三期養成講座は既に始まっているが、座学は誰でも受講することができるので、興味ある方は事務局まで問い合わせいただきたい。



第三期
2021年度 香川文化遺産保存活用技術者養成講座プログラム

月/日	講義テーマ	講師(敬称略)
3/6	開講式・オリエンテーション	大西泰弘/KHAC
	H.M.の制度/H.M.の役割を知る	池田裕美/香川県建築士会
	文化財概要/文化財の定義や保護制度の歴史を知る	江面嗣人/岡山理科大学
	課題説明/課題作成の概要と手順を知る	KHAC
3/13	H.M.の活動事例/H.M.概論・兵庫の事例・立ち上げから現在まで	沢田 伸/ひょうごヘリテージ機構 H2O
	H.M.の活動事例/香川県内の活動状況を知る	大西泰弘/KHAC 森本英樹/KHAC
3/27	伝統的木造民家の構法/江戸以前の伝統的木造民家の特徴を知る	麓 和善/名古屋工業大学
	現地研修/四国村を回り伝統的木造民家の特徴を見る	麓 和善/名古屋工業大学
4/24	現地研修/本島の歴史的建造物の特徴を知る	三宅邦夫/本島町笠島まち並保存協会
	現地研修/重伝建の制度、修理修景の歩み、建物実測調査の方法を知る	釜床美也子/香川大学
6/26	文化財の保存修理/文化財の現地調査や修理設計の方法を知る	鳴海祥博/元和歌山県文化財センター
7/10	現地実測調査/登録文化財候補物件の実測調査を行う	釜床美也子/香川大学
7/24	登録有形文化財の修理事例/登録有形文化財の修繕や維持管理の方法を知る	中野真弘/徳島県文化財マイスター
	登録文化財の概要と活用方法/登録文化財の制度や修繕方法、活用事例を知る	後藤 治/工学院大学
	文化財の耐震補強/文化財の耐震補強方法を知る	富永善啓/文化財構造計画
8/28	伝統木造建築の屋根技術/伝統木造建築に用いられる屋根技術を知る	請川和英/請川窯業
	伝統木造建築の左官技術/伝統木造建築に用いられる左官技術を知る	大西泰弘/田園都市設計
	中間報告/課題の概要を発表する	KHAC
9/25	文化財の防災設備/文化財の防災設備について学ぶ	藤井聡志/能美防災
	近代建築概要/近代建築の見方や特徴を学ぶ	松隈 洋/京都工芸繊維大学
10/9	日本家屋の「近代」/近世から近代までの木造民家の特徴を知る	戸塚元雄/戸塚元雄建築設計事務所
	伝統木造建築の大工技術/伝統木造建築に用いられる大工技術を知る	松尾 潔/松尾工務店
10/23	社寺建築の構法/社寺建築の特徴を知る	清水真一/徳島文理大学
	現地研修(会場:普通寺)/社寺建築を見る	清水真一/徳島文理大学
11/27	文化財の保存と活用/文化財の保存と活用の事例や文化財保護の問題点を知る	未定/文化庁
	発表会、閉校式/課題の調査結果発表、講座総括、今後の活動参加方法など	KHAC

※ ヘリテージマネージャーは「H.M」、香川歴史的建造物保存活用会議は「KHAC」と記す

近代の瓦

大西泰弘



- ① つづ入り丸巴
- ② 巴紋のみ
- ③ 蛇の目軒巴(表紙写真)
- ④ 石持軒巴
- ⑤ 万十軒巴

明治期に建てられた芝居小屋「肥土山の舞台(小豆郡土庄町)」の屋根修繕工事に関わる中で、近代(明治～戦前昭和)の軒瓦には家紋が入ったものを除き大きく5種類の様式があることを知った。

- ①「つづ入り丸巴(まるともえ)」と呼ばれる巴の周りに珠文(じゅもん)があるもの、
- ② 珠文のない巴文(ともえもん)だけのもの、
- ③ 文様がなく中央が凹んだ「蛇の目軒巴」、
- ④ 凹みがなく平坦な「石持軒巴(こくもちのき

ともえ)」、

- ⑤ 中央が丸く膨らんだ「万十軒巴(まんじゅうのきともえ)」の5種である。

肥土山の舞台で使用されていた軒瓦は「③蛇の目軒巴」であった。瓦の専門家に確認すると明治期は「①つづ入り丸巴」、明治後期から大正期は「③蛇の目軒巴」、大正期から昭和初期には「④石持軒巴」といった変化が伺えるとのこと。現在最も多く見るのは「⑤万十軒巴」である。



KAGAWA HISTORICAL ARCHITECTURE COMMITTEE

香川歴史的建造物保存活用会議

ご相談・お問い合わせは

〒763-0033 丸亀市中府町四丁目2-27 香川歴史的建造物保存活用会議 事務局

TEL : 0877-85-5126

FAX : 0877-85-5127

mail : info@kagawa-historical-archi.org

URL : http://kagawa-historical-archi.org



香川歴史的建造物保存活用会議ホームページQRコード